

平成22年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )



学校運営計画(4月)				評価(3月)		
学校運営方針		次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。			B	
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
本校は、文武両道にわたって成果を上げる有数の進学校、そして伝統校へと発展を続けている。昨年度は、「きらめき計画」の導入により教育活動全般について改善に取り組み一定の成果を上げた。今年度は、同計画を充実・発展させるとともに、新しく設置された職に伴う校務運営組織の整備を図り、各分掌の連携体制の確立を目指す。		生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で豊かな人間性を育む。	生徒指導の基本を挨拶、掃除、容儀、時間厳守とし、全職員での指導を徹底する。			
		1時間の授業を大切にし、学力の向上・深化を図る。	部活動加入率80%超を目指し、運動・文化の両部活動の活性化を図る。			
		学ぶ意味について考えさせ、志をより一層高め進路の実現を図る。	いじめのない学校を目指し、全教育活動において心豊かな生徒の育成に努める。			
			悩みを抱える生徒を早期に発見し支援するために、細かな生徒観察を心掛ける。			
			年間出席率を99%超と定め、規律ある授業展開の徹底を図る。			
			中退率0%を目指し、気になる生徒に関する情報の共有化を図りながら指導に当たる。			
			家庭学習を充実させるために、学ぶ意義と有効な時間の使い方を全職員で指導する。			
			生徒が夢を描き続けられるように、様々な教育活動を通して支援する。			
			職員全員の学校経営参画意識を醸成し、チームとしての意識の定着を図る。			
		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	
教科指導	「生徒の状況に応じた効果的な学習指導」の実践の企画・運営・支援を行う。	導入期指導「春日生になるために」の実践をとおり、授業力の向上を図る。	B	A	A	・授業中や考査中における生徒の荷物の置き方の指導の徹底をはじめ、整理整頓を常に意識した学習環境の最適化。  ・心視の時間を最も有意義に活用できるように、きらめき委員会との連携をさらに強化した綿密な計画の立案と実施。
		年間及び学期毎の学習指導計画の活用徹底と学期毎の総括を行い効果的な学習を図る。	A			
		計画的な特別補講、三者面談、調査統計資料の提供等により成績不振者指導の充実を図る。	A			
		「家庭学習時間の減少」克服のため、最終下校時間の徹底と「学ぶ意義」の指導を行う。	B			
生徒指導	生徒自らの「在り方生き方」や未来を自主的に探る活動の充実を図り、積極的な生活を身につけさせる。	きらめき委員会との連携を密にし、「総合的な学習の時間」だからこそこできる活動を充実させる。	A	A	B	・遅刻、欠席の増加に対する指導の継続。 ・生徒間の人間関係の把握、「いじめ」の早期発見及び早期対応等、心の健康の保持・増進。 ・1、2年生の生徒リーダーの育成及び部活動生徒による学校全体の活性化。 ・交通マナーの向上、下校時間の徹底と速やかな帰宅の促進の為の指導法の工夫。
		人権や現代社会の課題等を盛り込んだホームルーム活動の年間予定を作成し、その充実と発展を図る。	A			
進路指導	自己指導能力の育成。	「授業心得五行」「春日高校五常」を日々実践する姿勢・態度を身につけさせる。	B	B	B	・キャリア教育課を中心としたキャリア教育の計画及び方策の策定と充実。 ・校内実力テストの処理システムの改善。 ・2年間を見通した小論文指導の計画。
		全職員で校内巡視を行い、問題行動の未然防止や安全な教育環境づくりに配慮する。	B			
		集団活動におけるチームワークの重視。	B			
保健	自他の安全を確保するための指導の継続。	生徒会執行部及び各専門委員会が連動して機能する組織づくりを支援し生徒会活動の活性化を図る。	A	A	B	・心身の問題を抱えた生徒への対応に当たる生徒サポート委員会の在り方の見直し。 ・整美委員会のリーダーの育成の継続と同委員会の活性化に向けた取組の工夫。
		年間を通じて部活動加入率80%以上を実現する。	A			
広報活動	キャリア教育の精選・充実を図り、人間関係形成能力や将来設計能力を高め、学ぶことの意義を考えさせる。	登下校時の事故防止、安全の確保、交通マナーの向上を図る交通安全指導を企画実施する。	B	B	B	・中学生の体験入学の日程調整。体験入学での中学生と本校生の交流方法の更なる改善。 ・学校紹介DVDの刷新。
		全職員で下校時間を厳守させ、速やかに帰宅する習慣をつけさせる。	A			
		安全点検を定期的に行うとともに美化に関する意識向上を図り、快適な学習環境を作る。	B			
職員研修	グリーンスタッフとしての活動の推進を図り、花のある美しい環境を作る。	学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動等を通して、健康管理や安全指導に関する保健指導を適切に行う。	A	A	B	・授業アンケートの趣旨の生徒への徹底。 ・保護者への公開授業の充実。
		保護者への公開授業を実施し、本校の教育活動への理解を深める。	B			
保護者・同窓会等との連携	職員研修(校外)の改善と充実を図る。	保護者からの質問や要望に対する学校としての受付窓口の機能を担い、連携に努める。	B	A	A	・PTA総会の出席率向上に向けた工夫。 ・クラス懇親会の意義や実施方法に関する職員の共通理解と保護者との連携強化。
		保護者への公開授業を実施し、本校の教育活動への理解を深める。	B			
図書活用	読書の意義や楽しさに気づかせ、読書習慣の確立を図る。	父母教師会や同窓会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	A	A	B	・PTA総会の出席率向上に向けた工夫。 ・クラス懇親会の意義や実施方法に関する職員の共通理解と保護者との連携強化。
		父母教師会や同窓会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	B			
図書活用	読書の意義や楽しさに気づかせ、読書習慣の確立を図る。	「読書会」を年2回実施するとともに、ブックマイレージの取り組みを活発化する。	B	B	B	・図書館行事の実施、他校との交流等を含めた図書委員会活動の活性化。
		教科との連携をとり、関係する書籍や資料の充実と図書館利用の促進を図る。	B			